

令和6年度

昭島市立玉川小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)中間報告

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	ビジョン	【目指す学校像】	・子供たちにとって学びがいのある学校 ・教職員にとって働きがいのある学校
			【目指す児童・生徒像】	・心身共に健康な児童 ・創造性に富んだ児童 ・人間として調和のとれた児童
			【目指す教師像】	・人権感覚が豊かな教師 ・創造性に富んだ教師 ・チームを意識した協調性のある教師 ・絶えず研究と修養に励む教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性
確かな学力	「分かること・できることが楽しい」 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う。	主体的・対話的で深い学びを実現する授業を工夫し、自らすすんで学習に取り組む児童を育成する。	授業において、児童相互の学び合い活動を取り入れ、すすんで学習に取り組ませる授業を実践する。	4 目標を効果的に達成するために児童相互の学び合い活動を実施…70%以上の教員 3 目標を効果的に達成するために児童相互の学び合い活動を実施…60%以上の教員 2 目標を効果的に達成するために児童相互の学び合い活動を実施…50%以上の教員 1 目標を効果的に達成するために児童相互の学び合い活動を実施…50%未満の教員	2	4 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…70%以上の児童 3 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…60%以上の児童 2 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…50%以上の児童 1 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…50%未満の児童	3	「課題把握」「課題追究」「課題解決」「振り返り」の学習過程を基に主体的・対話的な学びの授業改善につなげていく。	アクティブラーニングを取り入れた授業カリキュラムの実践。また、児童に見通しを持たせ、学習の振り返りを毎時間行い、気付く、考えが深まるのスパイラルをする。
		デジタル教科書、タブレット端末等を活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進する。	「ICTスキルステップ表」を基にし、タブレット端末をはじめとしたICT機器を学習に有効的に活用する。	4 目標を効果的に達成するためにICT機器を学習に活用した…70%以上の教員 3 目標を効果的に達成するためにICT機器を学習に活用した…60%以上の教員 2 目標を効果的に達成するためにICT機器を学習に活用した…50%以上の教員 1 目標を効果的に達成するためにICT機器を学習に活用した…50%未満の教員	3	4 学習にタブレットの活用は役立っている…70%以上の児童 3 学習にタブレットの活用は役立っている…60%以上の児童 2 学習にタブレットの活用は役立っている…50%以上の児童 1 学習にタブレットの活用は役立っている…50%未満の児童	3	1人1台のタブレット端末は各教科で有効に活用し、個別最適化の学習に役立っている。学年によって使用頻度や活用方法に差があるので、発達段階に応じた活用方法を考えていく必要がある。	発達段階に応じた活用にあたり、ICTスキルステップ表をまだ有効に活用できていない。活用しながら各学年で必要なスキルを身に付けさせていく。
		インクルーシブ教育の推進とユニバーサルデザインに基づいた教室経営を図る。	インクルーシブ教育の推進とユニバーサルデザインに基づいた教室経営を図る。	4 インクルーシブ教育を推進し、教室をユニバーサルデザインにした…70%以上の教員 3 インクルーシブ教育を推進し、教室をユニバーサルデザインにした…60%以上の教員 2 インクルーシブ教育を推進し、教室をユニバーサルデザインにした…50%以上の教員 1 インクルーシブ教育を推進し、教室をユニバーサルデザインにした…50%未満の教員	2	4 落ち着いて授業が受けられた…70%以上の児童 3 落ち着いて授業が受けられた…60%以上の児童 2 落ち着いて授業が受けられた…50%以上の児童 1 落ち着いて授業が受けられた…50%未満の児童	3	障害を理由に排除される子どもを生み出さず、学校生活のなかに参加し、学習するために同じ場所へ入るだけではなく、共生するためのサポートやシステム構築が必要である。	身体障害を持つ子どものサポートのため、校内の段差を減らしたり、学習障害を持つ子どもには対応スキルを持つ教員を配置したり、学習環境を整えることが重要である。
		道徳授業の質の向上を図り、自分の考え方に気付く、互いに認め合う児童を育成する。	道徳授業を通して、一人一人の良さを認め、互いに必要とされる実感がもてる学級経営を実践する。	4 お互いを認め合う道徳授業の実施…70%以上の教員 3 お互いを認め合う道徳授業の実施…60%以上の教員 2 お互いを認め合う道徳授業の実施…50%以上の教員 1 お互いを認め合う道徳授業の実施…50%未満の教員	3	4 思いやりの心をもって行動している…70%以上の児童 3 思いやりの心をもって行動している…60%以上の児童 2 思いやりの心をもって行動している…50%以上の児童 1 思いやりの心をもって行動している…50%未満の児童	2	教材に対して、それぞれが持った考えを共有する時間を設定し、すべての児童が同じ考えを持っているわけではないことや、異なる意見を尊重することが大切であると意識付けをしている。	児童が互いに必要とされていることを実感させることを目標に、今後も継続して指導を続けていく。
		いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く気付き対応し、安心して通える学校にする。	学校いじめ対策基本方針に基づいて児童への指導を定期的に行う。	4 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…70%以上の教員 3 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…60%以上の教員 2 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…50%以上の教員 1 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…50%未満の教員	2	4 学校で安心して生活できている…70%以上の児童 3 学校で安心して生活できている…60%以上の児童 2 学校で安心して生活できている…50%以上の児童 1 学校で安心して生活できている…50%未満の児童	3	毎月のいじめ対策委員会において早期発見対応を行っている。3人の先生に話をしに行くSOSカードの取組を9月に行った。	11月のふれあい月間に向けて準備を行い、未然防止の取組を実施していく。
		人や自然、文化との関わりを通して、本物と出会い自尊感情や自己有用感を高める。	縦割り班活動の充実を図り、児童同士が実体験を伴う交流を行う。	4 異学年交流活動を含めた指導の実施…70%以上の教員 3 異学年交流活動を含めた指導の実施…60%以上の教員 2 異学年交流活動を含めた指導の実施…50%以上の教員 1 異学年交流活動を含めた指導の実施…50%未満の教員	3	4 学校や学級の仲間と接している…70%以上の児童 3 学校や学級の仲間と接している…60%以上の児童 2 学校や学級の仲間と接している…50%以上の児童 1 学校や学級の仲間と接している…50%未満の児童	2	縦割り班活動を固定メンバーで始めて1年経ち、少しずつ名前を覚えて異学年児童同士の交流が増えた。兄弟学年での交流などが少ない。	引き続き縦割り班の活動を継続し、異学年交流を充実させていく。兄弟学年での交流する機会を作り、他学年の児童同士で名前を覚えられるような取り組みをしていく。
		心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	健康教育の充実を図るためにグッドモーニング60分の取組を年間を通して行う。	4 健康教育活動の実施…70%以上の教員 3 健康教育活動の実施…60%以上の教員 2 健康教育活動の実施…50%以上の教員 1 健康教育活動の実施…50%未満の教員	4	4 安全・安心や健康についての知識を活かしている…70%以上の児童 3 安全・安心や健康についての知識を活かしている…60%以上の児童 2 安全・安心や健康についての知識を活かしている…50%以上の児童 1 安全・安心や健康についての知識を活かしている…50%未満の児童	3	各学期の始め一週間、毎日記録を取り、各自取組んでみて生活や体調など、どのような変化があったか振り返るようにしている。	今後も自己の生活習慣を正すために継続して取り組ませっていく。
		一人一人が体力向上を意識できる、体育学習の充実を図る。	コーディネーショントレーニングを含む体力向上へ向けて実践を体育の授業で行う。	4 体力向上に関する指導を20回以上実施…70%以上の教員 3 体力向上に関する指導を20回以上実施…60%以上の教員 2 体力向上に関する指導を20回以上実施…50%以上の教員 1 体力向上に関する指導を20回以上実施…50%未満の教員	4	4 体を動かしたり遊んだりしている…70%以上の児童 3 体を動かしたり遊んだりしている…60%以上の児童 2 体を動かしたり遊んだりしている…50%以上の児童 1 体を動かしたり遊んだりしている…50%未満の児童	4	1学期の体力測定前にコーディネーショントレーニングを行う期間を設定した。2学期、3学期にも一定期間運動に取り組めるものを実施していく。	コーディネーショントレーニングだけでなく、遊びを含め、沢山体を動かす取組を実施していく。
		自らの健康を適切に管理するとともに改善能力を培う。	元氣アップガイドブックの活用した取組を年間を通して行う。	4 元氣アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…70%以上の教員 3 元氣アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…60%以上の教員 2 元氣アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…50%以上の教員 1 元氣アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…50%未満の教員	1	4 食事や栄養についての知識を生かしている…70%以上の児童 3 食事や栄養についての知識を生かしている…60%以上の児童 2 食事や栄養についての知識を生かしている…50%以上の児童 1 食事や栄養についての知識を生かしている…50%未満の児童	1	前年までの体力測定の結果を参考に年度初めに「生活」「運動」の目標を設定している。また、各学期末に振り返りをさせ、運動や遊びに継続的に取り組ませたり、生活習慣を見直させたりする。	年度当初の目標設定ができなかった。今年度の体力測定の結果をもとに、課題となった能力を向上させるための遊びや運動をガイドブックを活用しながら取り組ませている。
		自己有用感を感じる機会を通して、自分には得意なところがあると感じる児童を育成する。	児童が自分自身を見つめ、自分の得意なところを見つけ指導を行う。	4 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…70%以上の教員 3 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…60%以上の教員 2 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…50%以上の教員 1 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…50%未満の教員	2	4 自分の得意なことは何かについて考える…70%以上の児童 3 自分の得意なことは何かについて考える…60%以上の児童 2 自分の得意なことは何かについて考える…50%以上の児童 1 自分の得意なことは何かについて考える…50%未満の児童	3	各学級で当番活動や係活動に取り組んでいる。児童が自分の仕事に責任をもち、創意工夫しながら係活動を進めることで、自分の得意を見付けている。	運動会や展覧会への取組を通して、児童の活躍の場を広げる。
輝く未来	「みんなの役に立てて楽しい」 自己有用感を感じる機会を通して、自分には良いところがあると感じる子供を育成するとともに、キャリア教育を推進し、社会貢献力の育成を図る。	キャリア教育を推進し、自分の将来に対して考えさせる。	自身の成長や変容に気付くことができるようにキャリア・パスポートの活用を図る。	4 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…70%以上の教員 3 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…60%以上の教員 2 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…50%以上の教員 1 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…50%未満の教員	2	4 自分の将来について考えることがある…70%以上の児童 3 自分の将来について考えることがある…60%以上の児童 2 自分の将来について考えることがある…50%以上の児童 1 自分の将来について考えることがある…50%未満の児童	3	1学期2回、2学期1回、3学期2回、年5回を予定している。現時点では2回実施済である。	予定どおり年間5回実施し、次学年に確実に引継ぎを行う。
		社会への適応性、社会貢献力の育成を図る。	学級や学年、家庭や社会の中での生活と、授業を関連させ、適応性と社会貢献力を養う指導を行う。	4 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…70%以上の教員 3 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…60%以上の教員 2 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…50%以上の教員 1 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…50%未満の教員	2	4 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…70%以上の児童 3 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…60%以上の児童 2 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…50%以上の児童 1 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…50%未満の児童	3	家庭学習強化旬間にて自主学習の取り組みを促している。家庭と連携を図りながら、興味・関心を生かした家庭学習を通して、学習と生活を関連させようとした。	校内研究を通して、地域社会に貢献しようとする態度の育成を図っている。研究を深め、実践していく。